

～持続可能な社会のための活動報告書～



みやぎ生協・コープふくしま

サステナビリティレポート 2026



みやぎ生協・コープふくしまのめざすもの

わたしたちは、協同の力で、人間らしい暮らしを創造し、
平和で持続可能な社会を実現します



「みやぎ生協・コープふくしま サステナビリティ・レポート」 発行にあたって

みやぎ生協・コープふくしまは、それぞれの創立以来、地域住民のコミュニティの中核として多数の市民を代表する組織となることをめざしてきました。2019年3月には組織合同し、これまで築いてきた伝統を守り育てるとともに、新しいことにも挑戦し、さらに大きな範囲でより良き地域社会を創るために活動しています。

生協が掲げる「協同」は、市場経済で強調される「競争」がもたらす諸問題を解決する考え方です。弱肉強食の世の中ではなく、人が互いの人間性を尊重し合い、助け合うことで、「誰一人取り残さない」世の中をめざすことにつながります。これは2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」の基本理念と一致します。

現在、私たちは地球的規模で生じている気候変動など環境問題や飢餓、貧困など人の生存を脅かす諸問題に直面しています。2024年12月に日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を受賞し、ともに核兵器廃絶の運動を進めてきた私たち生協関係者は平和への一筋の光を見出しましたが、それ以降も、2022年から続くロシアによるウクライナ侵攻や今年新たに生じたアメリカによるイランへの攻撃など、世界のいくつかの地域では戦争状態が続いています。争いの継続は上述した諸問題を複雑化し、世界全体に悪影響を及ぼしています。また、各地の戦乱はエネルギーや食料など生活に不可欠な物資の不足、価格高騰をもたらし、私たちの生活や生協の事業に多大な影響を及ぼしています。それらも含め、人類が解決すべき諸課題に対し、昨年の「国際協同組合年」では協同組合の役割の重要性が強調されました。その期待に応え、私たち生協はどのように貢献するかが問われています。

このサステナビリティ・レポートは、みやぎ生協・コープふくしまの事業・活動とSDGsの17目標の関係を、メンバー（組合員）、お取引先様、自治体、関係団体などの皆様にわかりやすく伝えるためにまとめたものです。

東日本大震災以来取り組んできた被災者支援はもちろん、この間積極的に取り組んできた再生可能エネルギーによる発電事業をはじめとした環境活動、開始から50年以上を経て、2030年までに新たな高みを目指す「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」、生活相談・貸付事業、コープフードバンクなど様々な事業・活動を掲載しています。是非ご一読いただければ幸いです。

みやぎ生活協同組合
理事長

冬木 勝仁



Contents 目次

コープSDGs行動宣言	3
メンバー（組合員）数100万人達成	4
東日本大震災からの15年のあゆみと防災	5

1 みんなでつくる豊かな暮らし

いきいきとくらせる地域づくり	9
生産者と消費者をつなぐ「めぐみ野」	13
地産地消でつながる地域“ふくしま大豆の会”	16
6次産業化推進施設「仙台ハーベストビレッジ」	16
東北の食と産業を伝える「古今東北」は11周年	17
食品の安全・安心	19

2 安心してくらせる地域づくり

地域のインフラとして	21
地域のセーフティネットとして	22
社会福祉の向上	23
「誰も取り残さない」買い物のかたち	25

3 公正で人にやさしい組織づくり

働きやすさとダイバーシティ	27
---------------	----

4 地球とエネルギーの未来のために

環境理念・方針	29
2030年目標「CO ₂ 排出量 60%削減」	29
循環型社会の構築～3R～	30
再生可能エネルギーの普及拡大	31
メンバー（組合員）と進める環境活動	33

5 平和な社会の実現をめざして

平和な国際社会に向けて	34
-------------	----

6 ガバナンスと概況

経営体制と意思決定	35
みやぎ生協とコープふくしまの組織合同、 コープ東北サンネット事業連合との関係	36
内部統制	37
組織概況	38

みやぎ生協・コープふくしまのステークホルダー（生協と関わりのある個人・団体）

メンバー（組合員）を含む消費者、職員、取引先・めぐみ野生産者、地域社会（自治体、団体、他生協）、地球環境（未来の人々）

掲載範囲

- 対象期間 2025年3月21日～2026年3月20日（特別記述がない場合）
- 対象範囲 みやぎ生協・コープふくしま、コープ東北サンネット事業連合とその子会社・関連団体
本紙でご紹介する取り組みの該当範囲を示すため、見出しの横に以下のようなアイコンを記載します。



……みやぎ生協



……コープふくしま



……コープ東北

コープSDGs 行動宣言

私たちは、2018年に日本生協連で採択された「コープSDGs 行動宣言」に賛同し、持続可能な社会づくりにこれまで以上に取り組みます。

誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します

私たちは、誰一人取り残さず、安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します。自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売や配食事業など、生協の事業や活動のインフラを活用し、地域における役割発揮を進めます。



健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

私たちは、食生活、運動、社会参加の視点から健康づくりを進めます。安全・安心はもとより、より健康な食生活に向けた商品事業と組合員活動を推進します。生活習慣病や介護予防など「予防」を重視し、福祉事業や助け合い活動を広げ、自治体や諸団体と連携し、地域包括ケアシステムのネットワークに参画します。



地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

私たちは、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対して、意欲的な温室効果ガス削減目標（2030年環境目標）を掲げ、省エネルギーと再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組みます。再生可能エネルギーの電源開発や家庭用電気小売を広げ、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をめざします。



持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます。

私たちは、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、持続可能な社会づくりをめざします。国内外の人々、そして限りある地域資源へ思いをはせ、商品の開発と供給を進めます。学習活動を通じて、エシカル消費や持続可能な社会に関する理解を促進し、私たち自らの消費行動やくらしのあり方を見直していきます。



ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します

私たちは、地域における活動を通じて、社会のジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。女性も男性も、誰もが元気に、生きがいを持って働き続けられる生協づくりを進めます。



世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します

私たちは、誰一人取り残さない世界をめざして、世界が抱える問題についての理解を深め、助け合いの精神を貫き、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、話し合う活動を広げ、子ども食堂やフードバンク、フードドライブなどの取り組みを進めます。



核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します

私たちは、「核なき世界」の実現のために、世界の人々と手を携えて、核兵器を廃絶し、平和な社会をめざす取り組みを進めます。私たちは、次の世代に被爆・戦争体験を継承し、日本国憲法の基本原則である平和主義のもと世界平和の実現に積極的に貢献します。



私たち生協は、SDGs(持続可能な開発目標)に貢献することを約束(コミット)します。

私たちは、「生協の21世紀理念（1997年日本生協連総会決定）」のもと、助け合いの組織として、誰もが笑顔でくらすことができ、持続可能な社会の実現をめざし、様々な取り組みを進めてきました。誰も取り残さないというSDGsのめざすものは、協同組合の理念と重なり合っています。私たちは、あらためて持続可能な社会の実現に向けて取り組むことを、「SDGs 行動宣言」としてまとめました。私たちは、以上7つの取り組みを通じて、世界の人々とともにSDGsを実現していきます。

みやぎ生協・コープふくしま メンバー（組合員）100万人突破

みやぎ生協・コープふくしまは、

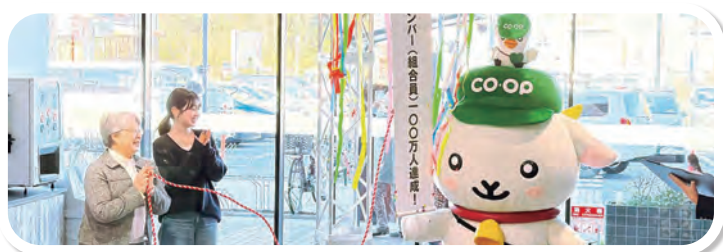
「一人は万人のために、万人は一人のために」 をスローガンに、みんなでつくる豊かな地域をめざして多様な活動をしてまいりました。

時代とともに高まり続けてきた、食やくらしの安心安全に対する多くの声に、設立より応え続けてきました。そして、この度みやぎ生協・コープふくしまのメンバー（組合員）数が合計100万人を突破するという節目を迎えることができました。

2025年12月19日 100万人達成セレモニー

みやぎ生協BRANCH仙台店で開催されたセレモニーには老若男女多くのメンバー（組合員）が参加し、あたたかな雰囲気にも包まれました。みなさまから喜びの声をいただき、これまでの取り組みに関する共感の輪が広がったと実感しています。

これからも、メンバー（組合員）の声に耳を傾け、くらしによりそいます。



メンバー（組合員）数・供給高の推移 ※2025年3月21日現在



みやぎ生協・コープふくしま メンバー（組合員）の歩み

1932	福島消費組合（コープふくしま）設立	
1947	宮城県学校用品購買組合 有限責任白河地区生活協同組合 購買利用組合（福島県南生協）設立	
1950	宮城県学校生協 設立	
1955	株式会社宮城県学校用品協会 設立	
1970	宮城県民生協 設立	
1982	みやぎ生協 設立 (学校生協と県民生協が合併)	
1995	コープ東北サンネット事業連合 設立	
1998	ふくしま大豆の会 発足	
2003	メンバー（組合員）50万人突破	
2011	東日本大震災発生 「めぐみ野」ブランドの立ち上げ	
2015	「古今東北」ブランドの立ち上げ	
2019	みやぎ生協・コープふくしま・ 福島県南生協組織合同	
2025	メンバー（組合員）100万人突破	

みやぎ生協・コープふくしまは、メンバー（組合員）が出資して、利用し、運営する組織です。メンバー（組合員）にできるだけ多く加入していただき、出資金を増やし、そのお金で店舗を建てたり、商品を仕入れたりすることができます。メンバー（組合員）の数は、その意味でもとても大事な数字です。

今をさかのぼること40年以上前の1982年（昭和57年）に、宮城県民生協と宮城県学校生協が合併して、みやぎ生協が誕生しました。その時のメンバー（組合員）数は、15万6,147人でした。そして、2019年にみやぎ生協と福島県のコープふくしま・福島県南生協の3生協が組織合同しました。合同前のみやぎ生協のメンバー（組合員）数は746,970人、コープふくしまは176,102人、福島県南生協は15,422人で、3生協あわせて93万8,494人になりました。

そのメンバー（組合員）数が、めでたく2025年12月に100万人を突破することができました。ありがとうございます。そして、おめでとうございます。100万人の皆さんの出資金は、537億円を超えています。100万人という数字は、記念すべき数字です。メンバー（組合員）みんなで成し遂げた数字です。

この数字をもとに、みやぎ生協・コープふくしまがめざすもの「わたしたちは協同の力で、人間らしいくらしを創造し、平和で持続可能な社会を実現します」を一層推し進めたいと思います。これからもみやぎ生協・コープふくしまをよろしくお願いします。

みやぎ生活協同組合 副理事長 河野 雪子



1. 震災・原発事故直後の対応と支援



みやぎ生協では、可能な限り店頭での営業を継続し、3/11 27店舗、3/12 44店舗、4/1 よりほぼ全店で通常どおり営業を開始しました。



全国の生協から、のべ2,992人の応援職員や物資・車両の支援を受け、支援活動を拡大しました。



2011年5月、宮城県内の4ヶ所にボランティアセンターを立ち上げました。地域代表理事やこへぶ委員会などが中心となり、地域のコミュニティの場として「手作り商品カタログ」の発行、ミニコンサート、落語会、おゆずり会、ふれあい喫茶などを行いました。



宅配運営部では、3/14より約15万人の「安否確認とお見舞い活動」を開始しました。地域のインフラとして役割を発揮しました。



コープふくしまでは、放射能学習会を開催しました。「放射能はとにかく怖い」という漠然とした不安から、データを根拠に「怖い分だけ理性的に怖がる」ための自分自身の「ものさし」を持つことを目指しました。



コープふくしまでは、食事調査（陰膳方式）を10年間でのべ1,150家庭で実施しました。2014年度以降は検出限界（1ベクレル/kg）を超える放射性セシウムは検出されていません。

大震災からの15年のあゆみと防災

なぐ「くらしのものさし」～

2. 産業復興とくらしの応援



<全国の生協による産地視察・交流>

全国の生協組合員や職員が実際に福島を訪れ、自分の目で安全性を確認し、店舗や宅配事業で取り扱っていただきました。また、生産者を励ます活動にもなりました。



<農産品の応援>

福島県産農産品の風評払拭と生産者支援のため、東北6県の宅配網を通じて安全な旬の野菜セットを15年間で累計130万箱を超えてご利用いただき、全国からの励ましの声とともに生産者を支えています。



<漁業の応援>

試験操業で水揚げされた魚介類を店舗で優先的に取り扱いました。また、漁協婦人部による魚料理教室などを通じて「福島の魚」の魅力を発信し続けています。



<福島応援イベント>

生産者、お取引様、JAなどと一緒、全国の生協が企画する福島県の農産物をPRする全国イベントに参加しています。毎年会場に足を運んでくださる組合員の方々も多く、長きにわたり温かい応援をいただいております。



<古今東北>

東日本大震災からの復興と東北復興への思いを込めて、時を超えた東北のおいしさを届けるブランドです。2025年度の登録数は328品目となりました。

3.「忘れない・風化させない」ための啓発



コープふくしまでは、全国の生協などからの「福島被災地視察」の受け入れや「福島の今を知る学習会」など600回以上実施しています。また、富岡町民の心の拠り所である「夜の森のさくら」を全国に広めるプロジェクトを応援し、全国の24生協（連）に苗木の植樹をすすめてきました。

毎年全国の生協より開花の便りも届いています。生協文化会館ウィズ玄関前にも植樹しています。



ALPS（アルプス）処理水の海洋放出を行わず、関係者・国民の理解が得られる別の方法で処理することを要請する署名25万7500筆を国と東京電力へ届けました。



＜東日本大震災学習・資料室＞

本資料館は、未曾有の被害をもたらした「東日本大震災」を決して忘れず、そしてみやぎ生協がこの震災に際し取り組んだことを後世に伝えるために設置しました。開設以来、のべ2万人の方にご来場いただきました。

福島県は地震、津波、原発事故、そして風評被害という未曾有の複合災害に見舞われました。原発事故による避難指示は12市町村に射能、まずは知ることから」と、2011年4月から学習会を開催し、放射性物質を正しく理解し「理性的に怖がる」ことを学びました。

外部被ばく線量調査や食事調査など、全国の生協のみなさまからご支援・ご協力をいただき実施した「暮らし目線」の取り組みにより、とで自分なりの「ものさし」を持つことにつながり、日常生活を取り戻す大きな力となりました。

全国の生協から福島に足を運んでいただいた「福島被災地視察」や、各生協で開催された「福島の今を知る学習会」など、みやぎ生協・中でこそ人間らしい生活を取り戻せるということを学びました。原発事故は日本で起きた苛酷事故。今後も全国とのつながりを大切に「起

4. 現在の防災・減災への取り組み



<被災地スタディツアー>
2025年は南三陸、気仙沼、関上、陸前高田、福島などの企画を14回実施しました。



<3.11を忘れない取り組み>
2025年度は43エリアがみんなのスペースや店舗内38会場で実施しました。震災当時から被災者支援ボランティア活動を振り返るタペストリーや、被災地の変化を写真にして展示したり、当時役立ったグッズや商品を表示して、組合員に伝えていく取り組みです。



<防災出前講座>
学校や市民センター等で1人1人ができる防災の取り組みとして、ローリングストックや災害時の簡単調理などを伝え広めています。



<冊子で伝える、備える・食べる・買い足すを循環>
「ローリングストック」など、防災備蓄の必要性をポスターや商品で具体的に紹介し、家庭でできる防災の取り組みをお知らせしています。



<防災・減災を伝えるイベント出展>
行政や町内会などで主催するイベントに出展し、ポスターや防災食試食、防災クイズなどを通して防災・減災の取り組みをより広くお知らせしています。



<物資協定締結自治体・団体との懇談会>
大規模災害発生時、みやぎ生協・コープふくしまが地域や自治体・団体との関係でどのような役割を果たそうとしているのか確認していただいています。



<BCP検証訓練の実施>
BCPの実効性と職員の対応力向上を目的に毎年訓練を実施しています。訓練後はBCP本編、各部編の見直しを行っています。

及び、自主避難を含め16万人を超える方々が県内外での避難生活を余儀なくされました。混乱の中、私たちは「放
福島で暮らしていく自信を取り戻すことができました。特に、組合員の台所と直結した食事調査は、自ら参加するこ

コープふくしまが関わった企画は延べ600回を超えました。震災・原発事故を経験し、人は人との関わりのきたことを忘れない、風化させない」取り組みを継続してまいります。

ふくしま県本部 本部長補佐 央戸 義広





みんなでつくる 豊かな暮らし



いきいきとくらせる地域づくり

● メンバー(組合員)とつくる豊かな地域

生協では、メンバー(組合員)の意見を生協の運営に反映させるだけでなく、メンバー(組合員)自身が企画・参加し、交流することで地域のコミュニティ形成につなげています。

■ コープクラブ(みやぎ) コープ委員会(ふくしま)



地域のメンバー(組合員)が組織するコミュニティで、生協の取り組みや暮らしにかかわる様々なことを知り、学びながら、興味・関心のあることを自分たちで企画し、「楽しくてためになる」活動をしています。「わくわくコープ(みやぎ)」「ふれあいコープ(ふくしま)」などの交流活動も開催しています。

■ ワァ〜イわい 学習&交流会



メンバー(組合員)同士が地域を超えて交流する場として、またメンバー(組合員)の関心あるテーマを決めて、講師を迎え、学ぶ場として開催しています。

■ こ〜ぷ文化鑑賞会



優れた文化・芸術を鑑賞できる機会をより多くつくることを目的に、1987年にスタートした会員制の会です。こ〜ぷ文化鑑賞会ではさまざまなジャンルの舞台を年3〜4回お贈りし、楽しい時間を過ごしています。

2026年度例会は「三浦一馬キンテート」「OSK日本歌劇団」「ミュージカル」などを開催します。



■新たな空間MoreCoop



生協の様々な活動やサービスの発信拠点として2022年にスタートし、現在15店舗となりました。2025年度は岩切店・荒井店・仙台ハーベストビレッジ店・高砂店で開始しました。「アテンダント」（案内係）を配置し、売場案内や商品・サービスの説明など、「おもてなし」の気持ちをもって買い物をサポートします。宅配で注文した商品が店舗で受け取れる「宅配ステーション(※)」の設置、アテンダントや各部署、テナント・お取引先様などが企画するイベントも開催されています。

(※) 仙台ハーベストビレッジ店のそく



■コーすけまつり



子育て応援とCO・OP共済の認知度向上を目的に「コーすけまつり」を宮城県・福島県で開催し、1万人以上のメンバー（組合員）とご家族にご来場いただきました。無料で遊べるアトラクションや動物ふれあいコーナー、ステージでは楽しいパフォーマンスがいっぱいです。CO・OP共済キャラクター「コーすけ」も登場し、子育て中のご家族はもちろん、大人の方も童心に帰って1日中楽しんでいただけます。



● スポーツで地域を元気に！

■U-12サッカーリーグ「めぐみ野杯」



「誰も取り残さない小学生サッカーリーグ」を目指し、2022年に（一社）宮城県サッカー協会と協同してスタートした「めぐみ野杯U-12リーグ」。各チームの力に見合った試合環境をつくり、多くのチームが表彰され、選手も保護者もサッカーがもっと好きになるリーグです。2025年度は、122チームが参加して908試合を戦い、前期・後期合わせて13チームが優勝と表彰を経験することができました。

■小学校サッカー巡回授業の支援



（一社）宮城県サッカー協会が県内の小学校を対象に実施している授業を2021年度から支援しています。目的は子どもたちの絆や健やかな成長を促進させ、心身の成長に必要な「刺激」を与えることを、サッカーを通して行うことです。先生方にもサッカーを通じた運動、関わり方のノウハウを伝授しています。

2025年度は15校で開催し、1,986人の児童が参加しました。

■地域スポーツチームへの支援



宮城県と福島県に本拠地を置くスポーツチームを、資金面や選手雇用、栄養補給やチケット普及などで支援しています。チーム・選手の活躍が、地域に元気をもたらしてくれています。ヴォスクオーレ仙台／コバルトーレ女川／仙台89ERS／福島ユナイテッドFC／ベガルタ仙台／マイナビ仙台レディース／楽天野球団／リガール仙台（50音順）



● 子育て応援・エールアクション

子育て応援事業活動全体を「子育て応援・エールプログラム」とし、各部が取り組む「子育て応援・エールアクション」という事業・活動を通して子育て世代を全力で応援しています。



■ ココイククラブ



妊娠中～15歳未満の子どもを持つメンバー（組合員）を対象にした無料サービスです。専用サイトでは離乳食レシピやおすすめ絵本など、子育てに役立つ様々な情報を公開しています。

2025年度は、小学生がお店のお仕事を体験できる「こども店長」を開催しました。店内放送やお客様のお出迎え、商品の陳列や「もぐもぐコープ」を体験、そしてふだん入ることの出来ないバックヤードを見学し、POP作りなどを楽しみながら学びました。



ココイク会員 特典プレゼント



こども店長

■ 子育てひろば (みやぎ) ■ 親子ひろば (ふくしま)



0歳～未就園児とご家族を対象としたサロン活動です。歳の近いお子さんを持つ親同士で交流し、「子育てが楽しい」と思える時間になっています。また様々な親子企画をオンラインや児童館などでも実施しています。



■ 子どもたちの食育をすすめる活動



食育イベントを開催しています。なかでも、児童向け「5 A DAY食育体験ツアー」、園児向け「5 A DAYたべるとのはなし教室」は、参加型体験食育教室として2025年度は宮城県内の小学校16校や幼稚園5園で授業として活用されました。また福島では、行政と一緒にバランスよく食べることの大切さを体験する取り組みを行っています。



5 A DAY買い物ゲーム

■すくすくばこ



宮城県・福島県の赤ちゃんの誕生をお祝いし、その記念として思い出をしまっておける「すくすくばこ」を無料でお届けしています。箱の中には趣旨に賛同した協賛企業様からの育児グッズなどが入っています。2025年度は宮城 5,019 人、福島3,028人の赤ちゃんへお届けしました。



■学校現場への支援



宮城県内の学校への講師紹介など様々な取り組みを通して、教育現場を幅広く支援しています。また、みやぎ生協の社会的活動の中で学校教育につながるものを掲載した『COOP 授業に役立つ学習ガイドブック』を、宮城県内のすべての小中学校へお届けしています。



■コープママのサポートクッキング



職員で野菜ソムリエとNPO日本食育インストラクターの資格を持つ「コープママ」。「楽しく・おいしく・健康に」をキーワードに自治体や子育て支援センター、児童館からの要請を受け、離乳食講座や親子で楽しめる食育講座を実施しています。

● 地域とともに子育てを応援

■こども食堂の支援



子どもたちの孤食を防ぎ、地域の居場所として無料または低価格で食事を提供する「こども食堂」。店舗集会室・調理室、食品などを提供しながら、地域の方々も含めた交流の場作りを応援しています。「みやぎこども食堂ネットワーク」へ協力し、入会団体へのギフトカード寄贈や食品の受け渡しなど、支援のハブ機能を担っています。

また、福島では、いずみ店で「コープいずみ子ども食堂」を、毎月1回パントリー形式などで行ってききましたが、2025年度からは、隔月で会食形式で行っていきます。

■乳児見守りおむつ等お届け事業



0歳児のいるご家庭に定期的におむつ等をお届けすることを通じて、赤ちゃんと保護者を見守る子育て支援事業を受託しています。2023年度からは、子育て家庭の見守りに関する研修を受けた生協の職員がお届けの際に育児の悩みなどを伺い、アドバイスや市の子育て支援サービスへつなげるなどの活動にも取り組んでいます。

現在、富谷市、岩沼市で行っています。



生産者と消費者をつなぐ「めぐみ野」

「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」

「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」の取り組みを通して、自然環境や生物多様性、人を大切にする農業や漁業の維持・発展・食料自給率の向上に寄与しています。



● 消費者・生産者の共通の願いを実現するために

「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」

3つの基準

- ① だれ(生産者)がどこ(産地)で作ったかがわかること。
- ② どのように作ったか(栽培・飼育方法)がわかること。
- ③ 生産者とみやぎ生協のメンバー(組合員)の交流があること。

「食」に関して厳しい今だからこそ、大切にしたい 「産直めぐみ野」

2025年度の「めぐみ野」の供給高は100億円を超え、当初「めぐみ野未来プロジェクト」で掲げていた2030年度の目標を大幅に前倒して達成することができました。2015年度の供給高が57億6,800万円であったことを踏まえると、この10年間でめぐみ野は着実に拡大しました。

一方で、商品や原材料を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。国際紛争、気候変動、相次ぐ自然災害により、食料やエネルギー供給の不安定化に拍車がかかり、生産現場もメンバー(組合員)の生活にも多大な影響を及ぼしています。特に2024年度の「令和の米騒動」は2025年に入っても米価が高止まりして、いまだ落ち着いていません。さらに、いまだで当たり前品揃えていためぐみ野が存続できなくなる事態も起きています。今後はめぐみ野を継続していくことが本当に難しくなっていきます。農業従事者の減少も深刻な課題です。2020年に約240万人であった従事者数は、2040年には30万人にまで減少すると予測されており、このままでは国内の生産基盤そのものが失われかねません。

「消費者」と「生産者」を結び、メンバー(組合員)の食を支えること、生産者が生産を継続できるようにすることが私たちの使命です。「めぐみ野」は地域のみんなが参加する協同の運動です。「めぐみ野」を通して第1次産業を支え、持続可能な地域社会に貢献します。



みやぎ生協 執行役員
産直推進本部長
コープ東北 執行役員
店舗商品本部長

今野 一彦

●「めぐみ野」と環境保全

みんなわくわく 生き物いっぱいの田んぼ



「めぐみ野」は、有機質肥料の活用など、土づくりに取り組んでいます。

豊かな土は生物多様性にも貢献し、「めぐみ野」米産地である宮城県の大崎地方は、2017年、「世界農業遺産」に登録されました。田んぼを訪れる子どもたちは「どうしてこんなに生き物がいるの?」と目をキラキラさせています。

飼料用米の活用

「めぐみ野」の豚肉・鶏肉・大沼牛・鶏卵・銀さけの生産には、飼料用米を加えたエサを使っています。飼料用米の生産と消費が増えることで水田が維持され、それが食料を自給する力の向上と環境保全につながります。



持続可能な養殖業と生物多様性

「めぐみ野」志津川湾産養殖銀さけの産地、宮城県志津川湾は「養殖銀さけ」発祥の地です。

美しい海を守るため、水中で崩れにくく、海を汚さないペレット状（小さな固まり）のエサを与えています。また限りある資源を有効活用するために、エサの一部に宮城県産の飼料用米を使用しています。

志津川湾は、藻場の多様性や希少な水鳥の重要な越冬場所であることが評価され、2018年ラムサール条約（湿地保存に関する国際条約）にも登録されました。



● 生産者が作る「めぐみ野」旬菜市場



旬菜市場には「安全でおいしい野菜を食べたい」というメンバー（組合員）の願いと、「その願いに応えたい」という生産者の思いがつまっています。生産者が規格と価格を決めて出荷しており、種類が多くて鮮度も良く、生産者の自信作がそろっています。

めぐみ野農産品は生協版GAP^(※)「安心くん」に取り組んでいます。

(※)GAPとは食品安全、環境保全、労働安全、人権保護等、持続可能な農業を守る生産工程管理の取り組みのことです。

● メンバー（組合員）と生産者の交流が育む「めぐみ野」

「めぐみ野」は同じ地域・日本にくらす者同士がお互いに交流しながら、「ともに地域をよく変えていこう、豊かな地域をつくっていこう」という事業活動・運動です。例年、季節ごとの産地見学や収穫体験のほか、店舗などでの学習会を数多く開催し、多くの人々がこの活動に参加しています。



「顔とくらしが見える」関係は、メンバー（組合員）にとっての安心感だけでなく、「買ってくれる人がいる」「作り続けられる」という生産者の希望にもなります。

生産者の皆さんが地域で農業や漁業、畜産業などを長く続けていくためにも、助け合う「協同」の力である「めぐみ野」の活動を大切にしていきます。

● メンバー（組合員）と生産者との交流から生まれた「牛乳タオル1本運動」



タオル1本運動贈呈式

1991年、メンバー（組合員）で構成された産直牛乳委員会が鳴子上原酪農組合を訪問したとき、牛乳をしぼる際に使うタオルの消耗が激しいことを耳にしました。

そこで、ささやかな支援として、家庭でねむっているタオルの提供を広くメンバー（組合員）に呼び掛ける「タオル1本運動」が始まりました。おいしい牛乳の生産に励んでもらうために続けているこの活動で、2025年度は2,645本、累計16万本以上のタオルを届けています。

いのちを育む「めぐみ野」 おいしさを未来へ

「顔の見える産直 めぐみ野」には、「だれがどこで作ったかがわかること」「どのように作ったかがわかること」「生産者とメンバーの交流があること」という3つの基準があります。

産地見学交流会にメンバー（組合員）が参加し、生産者の生の声や産地の様子に触れることで、「めぐみ野」商品がより身近で大切な存在になっていきます。

「あの生産者さんがあの場所で作ったもの」という顔がみえる商品となり、愛着もわき、おいしさが、日々の食卓を彩ります。

また、地球温暖化による農作物や海産物への影響は年々、深刻化しています。そのような環境下において「めぐみ野」商品は、生産者の知恵と努力と、産地の現状を理解し買い支えるメンバー（組合員）の応援という双方の支え合いがあつてこそ、このおいしさが次世代へとつな갑니다。私たちは、これからも「めぐみ野」を守り、育む活動を続けていきます。



みやぎ生協
地域代表理事

齋藤 裕美

地産地消でつながる地域“ふくしま大豆の会”



生産者・加工業者・消費者が連携し、福島県産大豆を使った安全安心な商品（納豆・豆腐・みそ、醤油など）を作り、利用する地産地消の推進に取り組んでいます。大豆の生産者や加工業者と連携して毎年「畑の学校」という活動の中で、消費者が種まきから収穫、みそ造りまで体験して生産者などと交流しています。



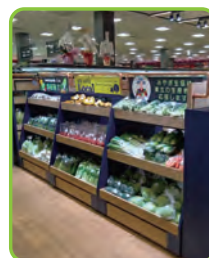
6次産業化推進施設「仙台ハーベストビレッジ」

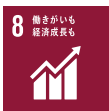
<消費者・生産者・生協が「食」を通して交流する場>

6次産業化とは、1次産業の農林漁業、2次産業の製造業、3次産業の小売業等の各事業の一体的な推進を図り、経営の多角化を進めることで所得向上や雇用確保を目指す取り組みです。

仙台ハーベストビレッジ店では、地元生産者を中心とした新たなコーナー「TUNAGU(つなぐ)」を配置し、「野菜」・「果物」・「漬物」等の加工品を品揃えしています。また、顔とくらしの見える産直「めぐみ野」の扱いや、東日本大震災からの復興と地域振興への思いを込めて、東北のおいしさを届けるブランド「古今東北」も展開しています。

取扱い数：総数約17,300アイテム。仙台ハーベストビレッジ限定の地元商品などの特色商品約1,260アイテム。





東北の食と産業を伝える「古今東北」は11周年



《青森県発》

岩手県産大豆リュウホウ使用 つるうま絹豆腐

岩手県産大豆（リュウホウ）を使用して、癖のない、滑らかな食感の「絹豆腐」に仕上げました。製造工場は青森県十和田市の太子食品です。八甲田山の伏流水を使っています。大豆（リュウホウ）は大粒の大豆で、甘みとコクに優れており、えぐみが少ないことが特徴です。



太子食品の皆さん

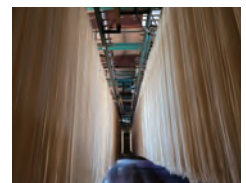


玉谷製麺所の皆さん

《山形県発》

山形県産ゆきちから小麦全粒粉使用 つるんと小麦色のそうめん

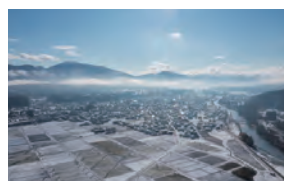
山形県月山高原産の小麦「ゆきちから」の全粒粉を使って開発した「そうめん」です。製造は山形県西川町の玉谷製麺所です。小麦の表皮、胚芽、胚乳を丸ごと「石臼」で挽くことで、栄養たっぷりで香り豊かな「そうめん」に仕上がりました。特に、「石臼」で挽くことで品温上昇を極力少なくして小麦本来の香りを残すことができました。通常の「そうめん」に比べて、小麦の味と香りを感じられます。



《秋田県発》

秋田県産大豆使用 天然醸造秋田の生じょうゆ

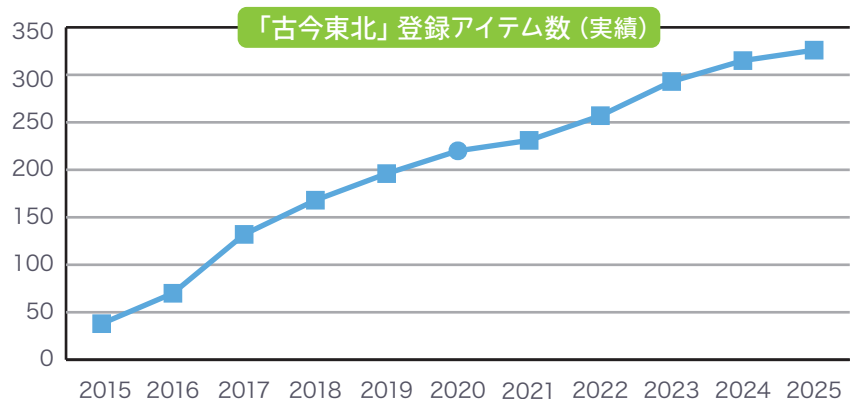
創業明治5年の秋田の蔵元「浅利佐助商店」で製造しました。秋田県産の「大豆」「小麦」「あきたこまち米」を原料に「しょうゆこうじ」を作り、おいしい「生じょうゆ」を作りました。同じような塩分の醤油より、味がまろやかで香りのよい醤油になるのが特徴です。秘密は原料に「お米」も使っているからです。塩分以外の調整は一切行わない天然醸造で作上げた生（き）醤油です。



浅利佐助商店の皆さん

● 生協以外の販路拡大

みやぎ生協・コープふくしま以外にも販路を広げるために、子会社（株）東北協同事業開発のもとで開発される「古今東北」商品。全国の生協のほか、地域の小売店、楽天市場でのネット販売にも広がり、取り扱いアイテム数も増え続けています。



2015年11月にデビューした「古今東北」ブランドは、2025年11月に10周年を迎え、2026年11月には11周年を迎えます。「古今東北」は東北6県の食材や加工品を全国に発信し、販路を拡大することで復興と地域振興を後押しすることをめざします。東北の「地域ブランド」として東北に貢献していきます。



《宮城県発》

宮城県蔵王山麓産生乳使用

蔵王マルチくり〜むち〜ず

(古今東北×宮城学院女子大学共同開発品)

宮城学院女子大学の学生さんたちの要望で、蔵王山麓の生乳を使った「クリームチーズ」を作りました。製造は「蔵王酪農センター」です。商品名も学生さんたちが考えました。和・洋様々な料理に使ってほしいとの思いを込めて「蔵王マルチくり〜むち〜ず」としました。蔵王山麓で育った牛たちの新鮮な生乳を使っておいしく仕上げています。



蔵王酪農センターの平間さん



農事組合法人宮守川上流生産組合の皆さん

《岩手県発》

岩手県遠野産酒米(吟ぎんが)使用

遠野のどぶろく物語(甘ロ)

「どぶろく」を生産している、宮守川上流生産組合は、「一集落、一農業」という取り組みを行って成功しています。約180軒の農家が、米や果物などの農産物を生産して、共同の工場加工製品を生産し、販売まで行うという取り組みです。地域の活性化に貢献しています。そこで、古今東北のどぶろくを作ってもらっています。どぶろく特区で酒米「吟ぎんが」を生産して、それを原料に「どぶろく」を製造してもらいました。どぶろく特有のお酒の風味を楽しむことができます。



《福島県発》

福島県産天のつぶ使用 もちっと米粉パスタ

(古今東北×宮城学院女子大学共同開発品)

福島県須賀川産米「天のつぶ」を使用し、米粉100%で作った「米粉パスタ」です。パスタだけでなく、米粉麺などでも利用できます。モチモチ食感で和洋中どんな味付けにもぴったりです。「米粉麺」にはでんぷんも使用することもあります。この商品は「米粉」100%で仕上げて、丁度良い歯ごたえにしたのが特徴です。グルテンフリーの商品です。「天の粒」は、福島県オリジナル品種として、東日本震災後の福島の復興のシンボルになっている品種です。



製造している
アルファ電子の皆さんと樽川社長



(株) 東北協同事業開発
取締役 開発・営業部長

丹野 潤一

地域に貢献できるブランドをめざします

「古今東北」ブランドは、震災復興や地域経済の活性化という理念で開発された商品ブランドです。東北の生産者の方たちの理解を得て、多くの商品開発が行われました。さらに、多くの販路も生まれました。東北の原料を中心に開発することは、東北の地産地消にも貢献することができます。「古今東北」は、東北の原料を使用することで、東北の商品を全国にも紹介していくプラットフォームの役割を担っていきたいと考えています。

食品の安全・安心

いつの時代も変わらない「安全な商品を安心して利用したい」というメンバー（組合員）の願いを叶えるため、生協は設立以来、安全でより良いものを供給することを事業の重要な柱としています。

みやぎ生協・コープふくしま 食品の安全・安心に関する基本方針

みやぎ生協・コープふくしまは、メンバー（組合員）が安心して食品を利用できる生協づくりを進めます。取引先および生産者と共同し、取り扱う食品の安全管理のレベルを向上させ、食に関するメンバー（組合員）の願いの実現をめざします。そのために、以下の基本方針に基づく取り組みを進めます。

① 取引先、生産者、メンバー（組合員）とコミュニケーションをはかり、生産・仕入れ・製造・加工・メンバー（組合員）への供給の各過程を通して、食品の安全性を高めます。

- (1) 食品の安全マネジメントシステムで適切な課題・目標を設定して実行し、その進捗状況を検証し、定期的に見直し、継続的な改善ができる仕組みをより確かなものにし、運用します
- (2) 重大商品事故の兆候を見逃さない仕組みを向上させるとともに、万が一重大商品事故が発生したときの被害を最小にするため、対応方針・手順を明確にし、訓練します。
- (3) 安全な食品をお届けするために必要な職員の力量を高めるために、教育・啓発を計画的に行います。

② 食品の安全や衛生に関する法令・規制を順守するとともに、必要に応じてそれらに基づく内部ルールを制定し管理を進めます。

③ メンバー（組合員）と産直生産者の交流を活発にし、「顔とくらしの見える産直」の運動の輪を広めます。

④ 県内産・国内産食品の取り扱い拡大と食料自給率の向上に寄与する活動を進めます。

⑤ 食に関する学習・体験の活動にメンバー（組合員）や他団体と協力して取り組み、安心できる食生活の実現に貢献します。

食品の安全・安心に関する基本方針は、生協内外に公表します。

2011年4月22日 みやぎ生活協同組合

商品の安全対策課

■食品の安全マネジメントシステム

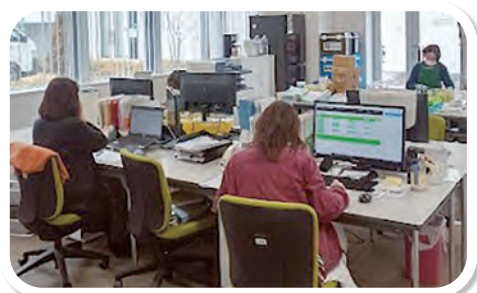
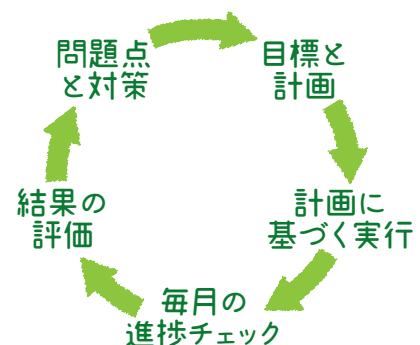
各部署で、「食品の安全・安心に関する基本方針」に基づく目標と課題を立て、進捗状況を確認しています。その取り組みの有効性は、内部監査や外部検査の結果も踏まえて評価し、目標に至らない場合には原因を明らかにして対策を補強することで改善を積み重ねています。

■お申し出対応教育

2008年「中国製手作り餃子農薬混入事件」のときに決意したこと・反省したことを風化させないため、採用時と毎年2月度に、事件の内容と教訓、信頼されるお申し出対応について職員全員が学習・確認しています。

■重大商品事故管理システム

重大な事故につながりかねない兆候を見逃していないか、お申し出に対する判断や対応に誤りはないか、お申し出となった原因解明と再発防止策はしっかり行われているかなど、最後まで対応状況を監視しています。



商品検査センター

商品検査センターでは、メンバー（組合員）のみなさまに安心して商品を利用いただくために、生協の宅配や店舗で取り扱う商品（インストア商品含む）の安全性を科学的に検証しています。



商品検査センターでは、微生物検査や放射性物質検査を行っています。残留農薬検査や特別管理原材料検査は、外部検査機関に検査を委託して実施しています。



2025年度 商品検査検体数一覧

微生物検査

	検体数
宅配商品	1,095
店舗加工商品	993
店舗一般商品	461
COOP 商品 生産部商品	570
取り扱い前商品など	996
合 計	4,115

※検査結果は店舗やメーカーの衛生管理向上のために活用しました。



放射性物質検査

	検体数
「めぐみ野」品、コープ東北産直	62
アクアクララ水	6
大豆の会	7
古今東北商品	1
一般市場品（魚介類）	10
合 計	86

※すべて基準値内であることを確認しました。



残留農薬検査

	検体数
「めぐみ野」野菜	167
「めぐみ野」米	15
合 計	182

※検査結果は、産地の栽培計画や管理向上のために活用しました。

※めぐみ野品は栽培計画を作成し産直使用農薬を決めて栽培しています。
（産直使用農薬：「使用を判断する4つの基準」に基づき使用できる農薬を決めています）

※残留農薬検査は日本生活協同組合連合会商品検査センターで行っています。

特別管理原材料検査

		品目数
「めぐみ野」品	品種判別	1
	産地判別	4
コープ東北商品	遺伝子組換え	4
古今東北商品	品種判別	8
	産地判別	8
合 計		25

※特別管理原材料検査：品種や産地、遺伝子組換え等のこだわりを持った原材料について、使われている原料が指定通りであることを、検証が可能なものについて確認しています。



安心してくらせる 地域づくり



3 すべての人に
健康と福祉を



11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナシップで
目標を達成しよう

地域のインフラとして

● 地域の見守り活動

■ 高齢者の見守り

宮城・福島県内の自治体と「高齢者見守りの取り組みに関する協定」を締結しています。宅配、ふれあい便、夕食宅配では、配達時にいつもと違う状況に気付いた場合に行政窓口へ連絡し、安否を確認しています。

2025年度メンバー（組合員）
異変発見件数

宅配	67
夕食宅配	40
灯油利用	1
ふれあい便	3
計	111

● 自治体等との連携

■ 包括連携協定

宮城県・福島県内の自治体と包括連携協定を締結しています。「誰もが安心してくらせる地域づくり」に向け、これからも幅広い分野で連携していきます。

■ 災害時における応急生活物資の供給協定など

宮城県・福島県内の自治体・団体と「災害時における応急生活物資の供給協定」を締結しています。また、広域消防組合と「緊急消防援助隊派遣時における食料物資の供給協力協定」を締結し、近年頻発している大規模自然災害時に備えています。

締結自治体一覧（2026年4月末時点）

- 宮城県13市町
●東松島市 ●石巻市 ●七ヶ宿町 ●塩竈市 ●大崎市 ●富谷市
●仙台市 ●白石市 ●利府町 ●栗原市 ●名取市 ●気仙沼市 ●大和町
- 福島県4市町
●福島市 ●国見町 ●伊達市 ●桑折町



災害時における応急生活物資の供給協定（2026年4月末時点・締結順）

- 宮城県27自治体
●仙台市 ●塩竈市 ●多賀城市 ●松島町 ●七ヶ浜町 ●利府町 ●大和町 ●大郷町 ●富谷市 ●大衡村 ●名取市 ●岩沼市 ●亘理町 ●山元町 ●登米市
●石巻市 ●大崎市 ●東松島市 ●白石市 ●加美町 ●南三陸町 ●気仙沼市 ●大河原町 ●七ヶ宿町 ●栗原市 ●涌谷町 ●角田市
- 福島県8自治体
●福島市 ●玉川村 ●浅川町 ●桑折町 ●棚倉町 ●伊達市 ●田村市 ●国見町
- 4団体
●日本赤十字社宮城県本部 ●株式会社フクダ&パートナーズ ●福島県老人施設協議会 ●亘理地区行政事務組合

緊急消防援助隊派遣時における食料物資の供給協力協定

- 仙台市消防局 ●石巻地区広域行政事務組合

■ その他

防災・減災意識の啓発や、災害発生時に生活に必要な情報提供を行うため、株式会社エフエム仙台と連携協定を結んでいます。また、白河市、株式会社楽市白河と高齢者の見守り、買い物支援に関する協定を結んでいます。

■ 首長・議員懇談会

宮城県・福島県の首長や宮城県議・仙台市議と、メンバー（組合員）との懇談会を年に1回行っています。「誰もが安心してくらせる地域づくり」というテーマで、生協と行政それぞれの取り組みについて情報交換し、メンバー（組合員）からは地域住民としての率直な意見を直接行政に伝える貴重な機会になっています。



仙台市長懇談会



福島市長懇談会



地域のセーフティネットとして

● 暮らしと家計の相談室(生活相談・家計再生支援貸付事業)



家計見直しのアドバイスや、金融機関からの借り入れができない場合の生活資金のご相談など、お金に関する様々なご相談をお受けしています。相談内容に応じて、公的支援や法的制度をご案内し、生協独自の貸付支援も検討します。また、宮城県および仙台市の委託を受け、「生活困窮者自立支援制度家計改善支援事業」の窓口として地域社会に貢献しています。



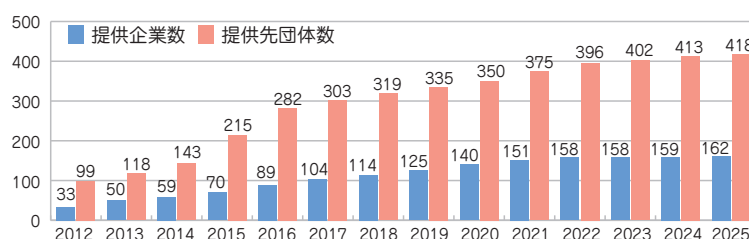
内容によってはすぐに弁護士などの専門家や消費生活センター、警察、行政などの公的機関等へつなぐなど、相談者の問題解決をサポートします。

● コープフードバンク



提供先団体・施設数

お取引先様などから余剰食品の無償提供を受け、社会福祉団体などに無償で提供しています。食品の無駄をなくすとともに、誰でも安心してらせる地域づくりをめざしています。



● フードドライブ

みやぎ生協・コープふくしまのフードドライブは、支援を必要とする施設や団体とつながり、ニーズに合った食品をメンバー(組合員)に呼びかけています。

■店舗・本部

2025年度は52店舗(58エリア)と八乙女本部で実施し、計13,565食をのべ100団体へ寄贈しました。

■宅 配

2022年度から、食品カタログ「Week (ウィーク)」で案内する、東北6県共同企画として取り組みを行ってきました。指定した商品をご注文いただくと、メンバーの皆様にはお届けせず、東北各県・各会員生協のフードバンク事務局を通じて食品を必要とする施設や団体、こども食堂などに提供しています。

2025年度は、6月・10月・2026年2月と3回ご案内し、みやぎ生協・コープふくしま合計で18,999点、約483万円分のご協力をいただきました。



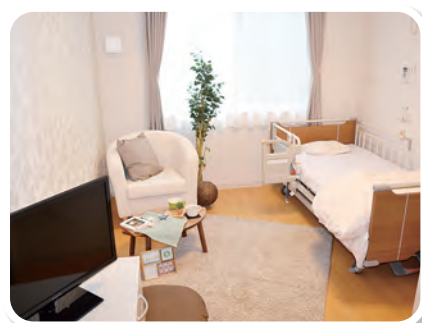


社会福祉の向上

● 社会福祉法人 こーぷ福祉会



介護・福祉事業を担うこーぷ福祉会は、在宅高齢者向けの介護拠点を宮城県仙台市内の3か所に設置しているほか、サービス付き高齢者向け住宅「こ〜ぶなごみの杜桜ヶ丘」を開設し、高齢者の自立した生活を支援しています。



■ みやぎ生協桜ヶ丘店に地域包括支援センター

仙台市の委託を受け、こーぷ福祉会が運営している桜ヶ丘地域包括支援センターは、みやぎ生協桜ヶ丘店の一角にあります。お店の中にあることで、買い物ついでに気軽に寄ることができます。

● 暮らしの助け合いの会



「住みなれた地域で安心して暮らしたい」「少しの手助けがあれば自立した生活が出来るのに」という思いを抱える会員どうしの助け合い、支え合いの活動です。高齢の方、障がいのある方、子育て中の方などのために、暮らしの困りごとを、活動できる会員が有償でお手伝いしています。

活動内容例

- 室内の掃除
- 通院など外出の付き添い
- 食事作り
- 産前産後の支援
- 話し相手
- 草取りなど
- 買い物



● 民間団体への支援

■ 福祉活動助成金



地域福祉の向上をめざし、福祉活動に関わる地域活動や研究活動を支援する事業に、宮城・福島含め、総額1,400万円を上限に助成金を贈呈しています。贈呈式には助成団体が集まるため、分野を超えた団体の交流の場にもなっています。



コープふくしま贈呈式



みやぎ生協贈呈式

2025年度上期・下期みやぎ生協福祉活動助成金 採択団体一覧

上期 助成団体 (26 団体)

- 柴田町朗読ボランティア結
- 子ども食堂みんなのテーブル
- 大崎子ども食堂の会
- 一般社団法人とりとーと
- かたくりの会
- みなと食堂
- 一般社団法人気仙沼あそびーの会
- 虹色実行委員会
(子ども食堂:校内カフェRainbow)
- hitotoki子ども食堂
- 特定非営利活動法人
ペット終活サポートネット宮城
- 教育の未来を支えるネットワーク
- 特定非営利活動法人認知症の予防と
遅延のための音楽療法研究所
- 食事サービス ふたばの会
- みやぎ・せんだい中途失聴難聴者協会
- 一般社団法人 おりがみ
- みやぎ・とめ食育Labo
- 特定非営利活動法人 音楽のチカラ
- 一般社団法人COCOA
- みやぎ人形劇の会
- 野外自主保育サークル おむすびころりん
- 一般社団法人 manaco
- ライクミー(ダブルケア支援団体)
- こども食堂バンビーニ
- 傾聴ボランティア 結和
- つながるカフェブルースト
- 一般社団法人東北駆け込み寺

下期 助成団体 (21 団体)

- ハッピースマイル
- サッカーおさがり販売会
- 特定非営利活動法人セミナー
- 和ごころコミュニケーションズ
- メディカルビューティータッチケアみやぎ
- 一般社団法人こざいん八木山
- 全国ギャンブル依存症家族の会 宮城
- 東北自死・自殺相談センター
- 仙台若林子ども劇場
- 宮城教育大学 mochi
- 特定非営利活動法人 麦の会
- 個人申請
- 松山子ども・地域食堂の会 (仮称)
- 認定特定非営利活動法人
あかねグループ
- 自然探検くらぶ にっか
- りらくす ママサロン
- 発達支援ひろがりネット
- 傾聴ボランティア結和 (ゆうわ)
- 総合型クラブ WARP!!!
- がん患者会とその家族を支える会
- ホットサロンとめ
- 友愛クラブ

2025年度コープふくしま福祉活動助成金 採択団体一覧

助成団体 (18 団体)

- 矢吹町社会福祉協議会
- 福島県チャイルドライン推進協議会
- 子ども食堂 コアの木
- かしまコミュニティ食堂実行委員会
- 特定非営利活動法人
はまどおりサポート ちるどれん
- 特定非営利活動法人 NEXT しらかわ
- あつまーる
- あしかの水遊び
- ぼんじょいの会
- 郡山医療生活協同組合
- 小規模多機能居宅介護 ひなたぼっこ
- 特定非営利活動法人 シャローム
- エル・マージ子ども食堂
- 郡山障がい児サポート macaron
- Tammy (子ども食堂 Tammy&Yummy)
- つながりつくり隊
- 地域食堂 さくらんぼ
- UFO 子ども食堂
- 特定非営利活動法人
ソーシャルデザインワークス

■ COOPTリプルカード みやぎスマイル基金



みやぎ生協と(株)日専連ライフサービス様が社会貢献を目的に協力で始まった「みやぎスマイル基金」。COOPTリプルカードでの決済1回につき1円を300万円まで積み立て、年に1度、学校や学生が取り組む地域貢献活動へ助成しています。



コープトリプルカード

みやぎ生協、日専連加盟店、JCB加盟店で利用できるクレジットカードです。



2025年度 助成団体 (15 団体)

- 宮城学院中学校高等学校 自然科学班(MGSC)
- 宮城県大河原産業高等学校
- 宮城県加美農業高等学校
- 宮城県白石高等学校
- 宮城県農業高等学校生活科
- 宮城県田尻さくら高等学校
- 学校法人北杜学園 仙台医療福祉専門学校 社会福祉学科
- 仙台こども専門学校 こどもくらぶ
- 宮城大学 学生団体Brush
- UNISON
- 災強のすけっと
- Naniyaru・宮城大学
- 東北大学インクストーンズ
- 任意団体えむわんず
- 東北福祉大学学生サークル
Positive Action students Supporters



「誰も取り残さない」買い物のかたち

● 店舗事業



買い物に困難を抱える方をサポートできるサービス・ケア・アテンダント資格者の育成や、バリアレスな店舗内装など、地域の皆さんが買い物をしやすいお店づくりをめざしています。



▲ご自分のペースでゆっくりお会計できるレジです。どなたでもご利用いただけ、釣銭やポイント券などの受け渡しをご自分のペースでゆっくりおこなうことができます。(木町店・錦町店を除く)



▲2025年度の導入店舗は、38店舗です。2026年度も増やす計画です。



▲視覚障がいの方や盲導犬を連れた方の対応方法を学んでいます。

■ 地域密着型コンビニFamily Mart + COOP

みやぎ生協の子会社が運営する「Family Mart + COOP」は、地域の暮らしに役立つ店舗として、宮城県七ヶ宿町、仙台市鶴ヶ谷に2店舗営業しています。お買い物だけではなく、地域のコミュニティの場として、「昔ながらの商店」のような地域密着型のお店づくりをめざしています。



● 宅配、夕食宅配事業



地域の高齢化が進む中、宅配事業に求められる社会貢献としての役割も大きくなってきています。個人宅配時の在宅状況を離れて暮らす親族へメールでお知らせする「個配メールサービス」をはじめ、子育て支援の「子育て割」や「シニア割」「障がい者サポート値引」「介護サポート値引」サービスのご利用案内、平日毎日お届けの夕食宅配サービスでの見守り活動など、安心してご利用いただける取り組みをすすめています。



● 移動店舗せいきょう便



現在、宮城県10店舗、福島県1店舗を拠点に運行しているせいきょう便。年々深刻になる買い物困難地域のニーズに対応しながら、運行台数とエリアを拡大し続けています。



運行エリア



稼働台数

宮城県内 16台

福島県内 1台

(2026年4月時点)



● お買いものサポートカー



交通手段がなく、お買い物にお困りの方を対象とした、登録制の無料送迎サービスです。毎週決まった曜日・時間に、ご自宅と店舗の間を運行しています。現在は仙台ハーベストビレッジ店にて実施しています。



● 買い物代行サービスこ～ぷふれあい便



会員登録をしていただいた方を対象に、週2回、お店の商品を自宅まで届ける買い物代行サービスです。現在は宮城県内17店舗で取り組み、地域の見守り活動としても役立っています。



利用の流れ

ご注文内容の確認

店で商品を選ぶ

レジで会計

セット

積み込み

お届け・次回分注文聞き取り



公正で人にやさしい 組織づくり



働きやすさとダイバーシティ

● 身だしなみルールの見直し

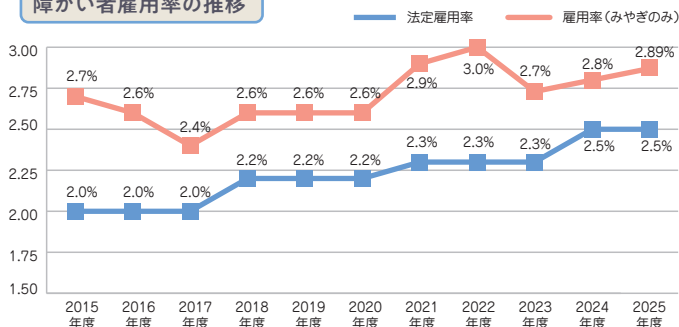
人材多様化の進展に伴い、髪色・髪型の自由化、ピアス・ネイルなどの装飾を認めることとし、職員がより自分らしく意欲的に働ける環境を整える取り組みを実施しました。ポスターを作成し、メンバー（組合員）へ周知しています。



● 障がい者雇用

現在、みやぎ生協・コープふくしま合わせて135人の障がい者が店舗を中心とした事業所で働いています。それぞれの特性や能力を活かせるよう、周囲の職員や総務部が力を合わせ、何かしらの制約がある人も働ける環境を作っています。受け入れる職員の理解と配慮の工夫も広がり、就労希望者は増えてきています。

障がい者雇用率の推移



● 育児・出産・介護休業

職員が出産後や、育児・介護の最中でも働き続けられるよう、法定基準以上の制度を整備し、ポスター等で周知しています。また、総務部職員が個別の相談に応じています。

■ 出産・育児支援制度

制度名	内 容	2025年度利用人数
配偶者出産休暇	通算2日以内で取得可能。	12人
妊娠時短	1日1時間取得可能。	10人
育児休業	① 女性 59人 ② 男性 17人	① 59人 ② 17人
育児時短	子どもが小学校3年生の修了まで取得可能（短時間勤務）。	40人
子の看護休暇	小学校就学前までの子ども1人の場合は年間5日、 2人以上の場合は年間10日、1日単位で取得可能。	35人

■ 介護支援制度

制度名	内 容	2025年度利用人数
介護休業	対象家族1人につき1年取得可能（アルバイトは法定の通算93日間）。	28人
介護時短	短時間勤務	3人
介護休暇	対象家族が1人の場合は年間5日間、2人以上の場合は年間10日間、 1日単位で取得可能。	8人

● リハビリ勤務制度

メンタル不調で休職した職員がスムーズに復職できるように、産業医、健康管理室、総務部が協力して支援する制度があり、復職後の就労支援を行います。

● 奨学金返済補助制度

奨学金返済補助制度は、将来の中核人材となり得る若手職員の奨学金返済にかかる経済的・心理的負担を軽減し、長く働き続けてもらうことを目的に、2024年3月21日から施行されました。

年度	補助をした人数
2024年度	37人
2025年度	45人

2024年3月21日以降に採用されたレギュラー職員で、入協後5年以内、満39歳未満であることが補助の条件です。

● サークル活動支援制度

スポーツや趣味を通して、部署・事業所の枠を超えたコミュニケーションを促すための支援制度。活動内容や活動計画などを申請してサークルとして認められると、活動費用の一部を生協が支援します。現在は30のサークルが登録されています。





地球とエネルギーの 未来のために



2022年9月に策定したみやぎ生協の環境・サステナビリティ政策とアクションプラン「7つの行動指針」に沿って、2024年3月より環境方針の重点課題を4項目から7項目へ改定しました。

環境理念

みやぎ生協・コープふくしまは、メンバー（組合員）と職員の活動や事業における取り組みを通して環境負荷の低減と自然との共生に貢献し、持続的に発展する社会づくりに寄与します。

環境方針

みやぎ生協・コープふくしまは、食料品、衣料品、日用品雑貨等の商品をメンバー（組合員）に供給していることを踏まえ、環境理念を基に環境保全活動を進め、事業者としての社会的な責任を果たします。

1. 「脱炭素社会、循環型社会、自然と共生した社会づくり」の3つの視点で、重点課題として以下の7項目をメンバー（組合員）とともに取り組みます。

- 1) エシカル消費に対応した商品を拡大・普及させ、エシカル消費に共感できる消費者を社会の中に増やしていきます。
- 2) 生協事業のサプライチェーン全体と、メンバー（組合員）の生活における温室効果ガス排出削減に取り組みます。
- 3) 再生可能エネルギーの開発を通して、日本における再エネ導入量を増加させるとともに、持続可能な地域づくりに貢献します。
- 4) 生協事業で使用する使い捨てプラスチック製容器包装と紙を削減します。また、持続可能な原材料への切り替えを進めます。
- 5) 生協事業から排出される容器包装等の回収・リサイクルを、メンバー（組合員）とともに推進します。
- 6) 生協事業ならびにメンバー（組合員）家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます。
- 7) メンバー（組合員）とともに環境保全活動を推進し、自然共生社会の実現を目指します。

2. 環境に関する法規制及びみやぎ生協・コープふくしまが受け入れを決めた要求事項（協定書など）を順守します。

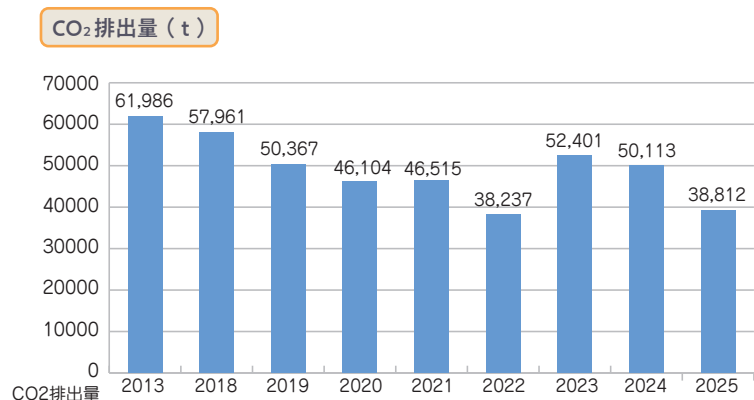
3. 環境汚染の予防と自ら構築した環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。

4. 全職員及び業務委託先に教育・啓発を積極的に行い、環境方針の理解と環境意識の向上を図ります。

この環境方針は、生協内外に公表します

2030年目標 「CO₂排出量2013年度比60%削減」

2030年度目標として「CO₂の排出量2013年度比60%削減」を掲げました。また、2025年度よりCO₂排出量算出の係数を変更しました。国際基準を踏まえ、新たに国の係数となった基礎排出係数（非化石電源調整済）を使用することに変更しました。



循環型社会の構築～ 3R ～

●メンバー(組合員)からの資源回収



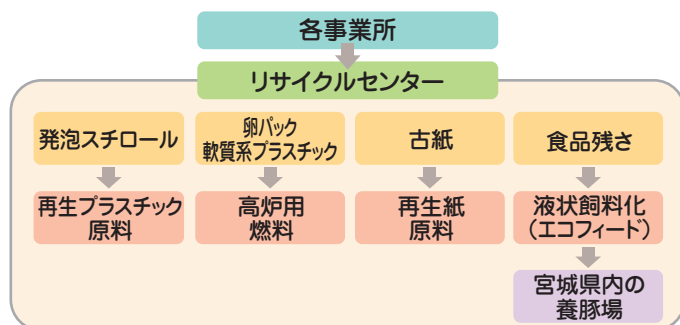
店舗にリサイクルボックスを設置し、古紙や牛乳パック、プラスチック容器などを回収しているほか、自治体の事業に協力し、小型家電や使用済み廃食油の回収ボックスを設置している店舗もあります。また、2023年度から一部の店舗にペットボトル回収機を導入しています。ペットボトル回収機は、投入本数に応じてコーポイントが付与され、お子様にも大人気で回収本数も増えています。それに加えペットボトルを1/3に減容することで輸送時のCO₂も削減しています。

●みやぎ生協リサイクルセンター

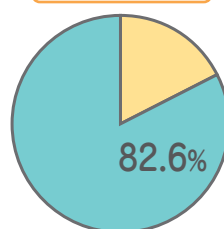


みやぎ生協では、事業所からも廃棄物を集め、自ら分別、収集、再資源化しています。紙類やプラスチック類のほか、店舗で発生する野菜・果物・惣菜・寿司・日配食品の残渣も集めており、エコフィード化(※)して県内の養豚場に出荷しています。これにより、高い食品リサイクル率を維持しています。

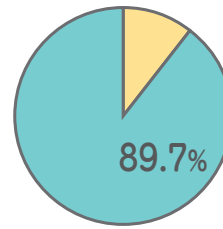
(※) 乳酸発酵による液状飼料化



事業系廃棄物のリサイクル率

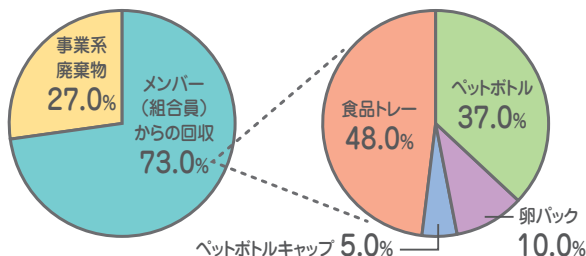


食品リサイクル率



■プラスチック資源 100%リサイクル

回収したプラスチック系廃棄物内訳(重量)



レジ袋の有料化に取り組むほか、メンバー(組合員)や事業所から集められたプラスチックごみのリサイクルに取り組んでいます。回収したプラスチックごみは、再生プラスチック素材や高炉用燃料として、ほぼ100%再利用されています。

●店舗で発生する残渣を自ら回収してエコフィードを製造しています

■エコフィード

リサイクルセンターは2014年に、これまでのコンポスト方式(食品残渣を堆肥化)から、エコフィード方式(食品残渣を乳酸発酵による飼料化)へ変更しました。店舗で発生する野菜・果物、惣菜、寿司、日配食品の残渣を自ら回収してエコフィード化(液状飼料化)し、液状化飼料にして出荷しています。また、バイオディーゼル(BDF)を燃料とした小型の蒸気ボイラーを使用して加熱殺菌し廃棄物とCO₂排出量の削減にも取り組んでいます。

<店舗で発生する食費残渣を回収してエコフィード化(液状飼料化)する流れ>





再生可能エネルギーの普及拡大

● 古着リサイクルの回収を開始（南光台店・生協文化会館ウィズ）

仙台市・ブックオフコーポレーション（株）・（株）BPLabの提携による古着の回収・リユース・リサイクルの実験展開を2026年度より開始しました。



● SAF（持続可能な航空機燃料）のための廃食油の店頭回収（加賀野店）

宮城県を中心とする「宮城 SAF プロジェクト」に参画し、廃食油の回収・リサイクルを通じて新たな二酸化炭素（CO₂）の排出量抑制に寄与するとともに、脱炭素社会の実現に向けた「国産バイオ燃料の製造」という意義があります。

（参考1：SAF（Sustainable aviation fuel）とは）

「持続可能な航空燃料」のことで、経済産業省は石油元売り大手に対し、二酸化炭素（CO₂）の排出量を減らすことができる航空機用再生燃料（SAF）の供給を2030年度から義務付け、ジェット燃料によるCO₂排出量の5%以上という目標を設定しています。



● みらいにやさしい COCOENE（ココエネ）

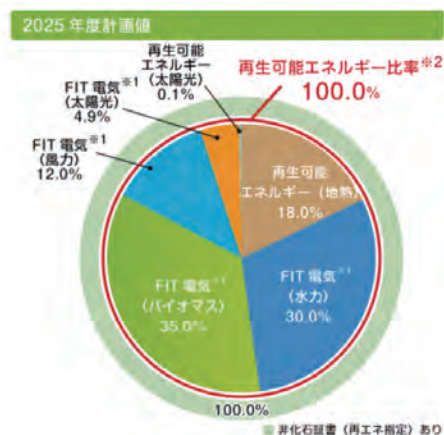


太陽光、風力、水力、バイオマスの自然エネルギーにより発電されたFIT電気・再生可能エネルギーの比率が100%（2025年度計画値）の「ソフトでんき」の販売を実施しています。

東北地方にある自然のエネルギーで発電された「地産地消」の再生可能エネルギーの利用を広げることで、再生可能エネルギー発電の拡大とエネルギー自給率向上などに寄与します。

（※1）FIT電気を含まず。

（※2）この電気を調達する費用の一部は、当社以外のお客様も含めて電気の利用者が負担する賦課金によって賄われており、当社が販売するFIT電気は、CO₂排出量について、火力発電なども含めた全国平均の電気のCO₂排出量をもった電気として扱われます。



● 再生可能エネルギーの普及拡大

みやぎ生協は、東京電力福島第一原子力発電所の事故後に再生可能エネルギー導入の取り組みを本格的に開始し、原子力発電に頼らないエネルギー政策を目指して取り組みを進めてきました。店舗や物流センターなどへの太陽光発電設備の設置を推進し、更には風力発電、太陽光発電（特別高圧・低圧）、営農型太陽光（ソーラーシェアリング）への参入、東北各地のバイオマス発電（花巻など5箇所）への一部出資などを積極的に進めてきました。

● 再生可能エネルギーの開発

2030年までに年間発電量8,100万kWh（事業で使用している年間消費電力量と同等）の再生可能エネルギーを開発することを目指し、東北各地での再生可能エネルギー事業の拡大に努めています。
（再生可能エネルギーの開発は2025年度末時点で3,800万kWhまで到達）



風力発電所 3基 計7.5MW
（秋田市・由利本荘市）



バイオマス発電所 計40MW
（平川市・大仙市・花巻市・田村市・野田村）



太陽光発電所 11.7MW
（特別高圧：丸森町）



太陽光発電所 計1.3MW
（低圧：15施設 角田市他）

● 自家消費型、自己託送型のエネルギー開発

■ 自家消費型

事業所屋根を活用し太陽光発電設備を設け事業所の電気使用量の一部を自家消費しています。

2025年 長町店・太子堂店・荒井店／（宮城県補助金活用）岩切店・A&COOP角田店、累計で25事業所の屋根を活用して設置しています。



■ 自己託送型（1MW）

宮城県川崎町に太陽光発電所を設け、発電した電力を送配電ネットワークを利用し、みやぎ生協7店舗へ電気を供給する事業を開始しました。発電能力は1,1MWで各店の自家消費比率は約20%となりました。



● 営農型太陽光（ソーラーシェアリング）発電所

■ 福島市岡島ソーラーシェアリング（50kW）

福島県福島市岡島地区でブドウを栽培している長谷川農園さんの農地にソーラーパネルを設置し、売電収入の一部を信達青果生産出荷組合連合会に寄付しています。



■ 二本松営農ソーラー（4MW）

（株）ゴチカン、ISEPと協力し、福島県二本松市の耕作放棄地をブドウやエゴマなどの農地に変え、その上に約6万㎡のソーラーパネルを設置しています。



● EV車（電気自動車）の導入

みやぎ生協では、2050年ゼロカーボンを目指していますが、実現のためには、みやぎ生協の全車両をEV又は水素車両に入れ替える必要があります。

（2025年度末時点のEV車の導入台数はトラック5台・営業車26台です）



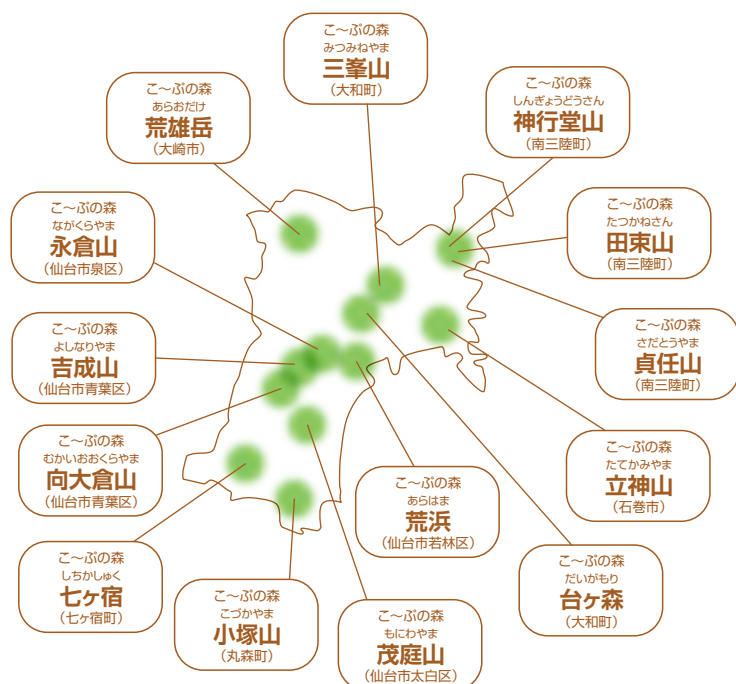


メンバー(組合員)と進める環境活動

● こ〜ぶの森



宮城県内の緑と自然を豊かにするために始まった“こ〜ぶの森”の活動。アルミ缶や廃食油回収の売却益や「COOP緑の基金」に寄せられた募金を活用し、植林や下草刈などに取り組んでいます。また、メンバー（組合員）が参加できる活動として、観察会や体験会などを開催しています。



こ〜ぶの森は宮城県内14ヶ所に広がっています。



COOP緑の基金運営委員長の講話の様子



看板製作の様子



平和な社会の 実現をめざして



平和な国際社会に向けて

生協は、商品を通じた国際貢献や開発途上国の子どもたちを支援するユニセフの活動を支援しています。また、原爆や戦争の悲惨さに目を向け、平和の大切さについて考える活動も続けています。

● メンバー(組合員)による国際貢献

■ コープ商品を通じた貢献

CO・OP コアノンスマイルスクールプロジェクト

「CO・OPコアノンシリーズ」いづれか1パックお買い上げいただくごとに1円がアンゴラ共和国に寄付され、楽しく学べる環境づくりに使われます。



CO・OP×レッドカップキャンペーン

キャンペーン期間内に対象のコープ商品を1点お買い上げいただくごとに1円が国連WFP(世界食糧計画)に寄付されます。寄付金は、毎年指定された開発途上国の「学校給食プログラム」に役立てられます。



■ ユニセフ 募金活動

店舗での募金箱やレジ募金、宅配注文書からの募金などを通じて、メンバー(組合員)とともにユニセフを支援しています。

2025年度 ユニセフ募金額

	みやぎ	ふくしま	合 計
一 般 募 金	3,441,474円	1,224,548円	4,666,022円
リサイクル(紙パック回収)募金	2,965,501円	125,165円	3,090,666円
リサイクル(ペットボトルキャップ回収)募金	158,800円	0円	158,800円
合 計	6,565,775円	1,349,713円	7,915,488円

(すべてみやぎ+ふくしま合計金額)

● 平和を守る活動

■ ピースアクションin オキナワ・ヒロシマ

平和募金を活用し、学生や親子を現地に派遣し「派遣報告会」を実施しています。オキナワでは沖縄戦の実相や現在も続いている基地の問題について学び、平和について考えます。

ヒロシマでは平和記念式典にも列席し、被爆の実相から平和への想いを継承することの大切さを学びます。

■ 「おかあさんの被爆ピアノ」上映会＆「被爆ピアノ」演奏会

被爆・戦後80年企画として宮城と福島で開催しました。被爆ピアノ演奏会には一般公募で選ばれた合わせて24組が出演し、平和への想いを込めて被爆ピアノの音色を届けました。観客のアンケートからは平和への強い願いと、戦争の悲惨さを次世代に伝えることの大切さがうかがえました。

■ 子ども平和新聞

戦争体験者からの直接の証言が難しくなる中、次世代を担う子どもたちが新聞作成を通じて平和について深く考える機会として新聞作りを行いました。河北新報社の記者から新聞作成のノウハウを学び、戦災復興記念館を訪れて仙台空襲の歴史や戦争体験者の悲惨な証言に直接触れました。自分たちが伝えたいことを記事にまとめ、9月6日の「2025ピースアクションinヒロシマ派遣報告会」で発表しました。



■ へいわの輪プロジェクト

毎日の暮らしの中で感じる「しあわせ」や「へいわ」の絵本126冊とコメントを展示する「絵本キャラバン」を実施し、多くの人と平和の想いを共有しています。また、「へいわ」の絵も募集し、平和について考えるきっかけ作りをしています。

絵本でつなごうへいわの輪プロジェクトサイト▶



被爆ピアノ演奏会の演者の皆さん



子ども平和新聞の完成報告をしました



「へいわ」や「しあわせ」を感じる絵の展示の様子



ガバナンスと概況



経営体制と意思決定

● 最高議決機関 総代会



メンバー（組合員）の中から選ばれた「総代」による「総代会」で、毎年の方針・事業計画などが決定されます。総代は、事業地域を基にした地域区と学校部職域区（宮城県のみ）の選挙区から選挙で選ばれます。

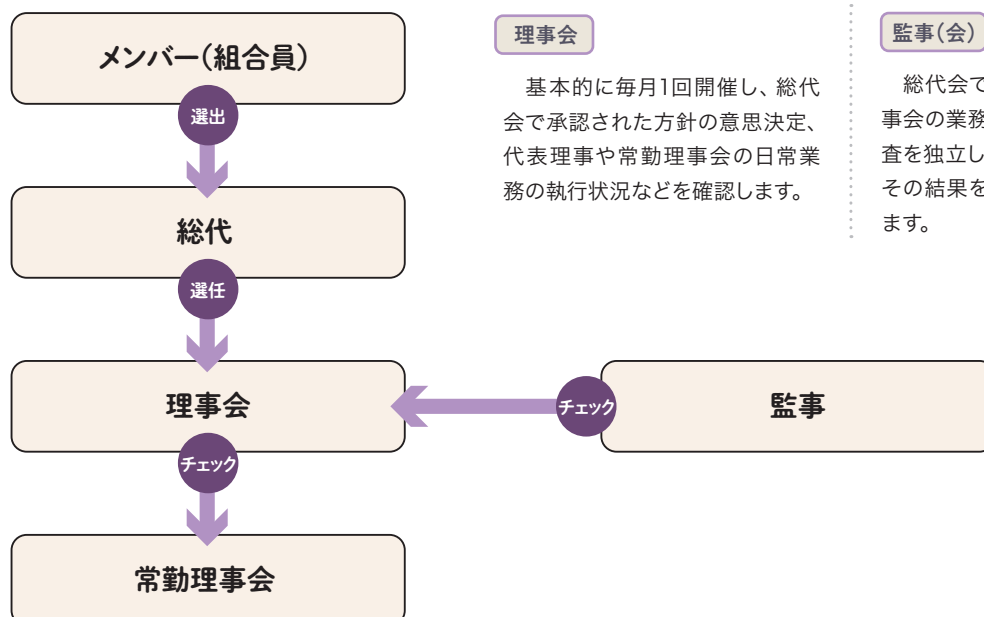
第45回（2026年）総代会 選挙区別 総代定数

	選挙区数	メンバー（組合員）数	総代定数
宮城県地域区	57	708,124人	846人
宮城県学校部職域区	8	7,765人	10人
福島県地域区	12	190,945人	231人
合 計	77	906,834人※	1,087人

※選出基準組合員数は、2025年12月20日現在の組合員数から住所不明及び未登録組合員数を除いた数です。

● 業務執行体制

日常的には各役員・本部長・部長が責任を持って、総代会の決定に基づき業務を執行します。また、監事は理事の職務の執行と会計監査などを行っています。



理事会

基本的に毎月1回開催し、総代会で承認された方針の意思決定、代表理事や常勤理事会の日常業務の執行状況などを確認します。

監事（会）

総代会で選出された監事が理事会の業務執行状況や会計の監査を独立した機関として実施し、その結果を毎年総代会に報告します。

2019年 3生協が組織合同 (みやぎ生協・コープふくしま・福島県南生協)

● 組織合同の概要

2019年度より、みやぎ生協、コープふくしま、福島県南生協の3生協が組織合同しました。

組織合同による目的は次の4つです。

- ① 事業革新とコスト構造改革
- ② スケールを生かした事業効率化
- ③ 福島県内での事業・組織率拡大
- ④ 人材の確保

「地域のメンバー（組合員）のくらしの向上に貢献し続ける」という使命実現のため、組織合同という形で連携を強めました。



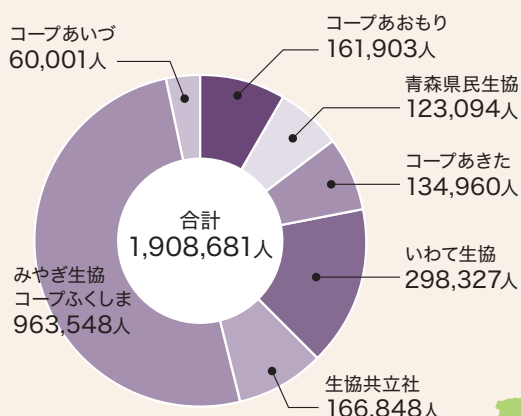
生活協同組合連合会 コープ東北サンネット事業連合

1995年にいわて生協、生協共立社、みやぎ生協が設立した事業連合で、商品仕入れを共同で行うことにより、それぞれの地域で事業経営力の強化を図ることを主な目的としています。現在は、東北6県7生協が加盟し、店舗事業、宅配事業、食品の安全安心、物流、システムなどの分野で統一・共同が進んでいます。（通称：コープ東北）

■ コープ東北のデータ

- 代表
代表理事 理事長 大越健治
- 本部所在地
宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2
- 設立
1995年5月12日
- 会員数
東北6県7生協

● 会員生協の組合員数 (2026年3月20日時点)



● 内部統制

ステークホルダーとの協同・連帯を大切にしながら、業務の効率性、提供する商品やサービスの質の向上に努めています。

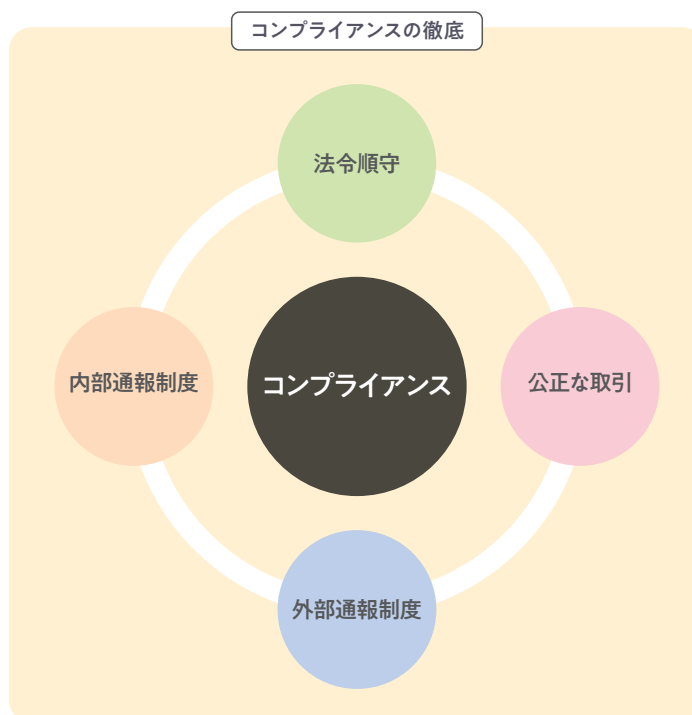
■ 内部統制システム整備 基本方針

内部統制システム整備に関わる基本方針を定め、7つの体制の整備をすすめています。これにより、内部統制の4つの目的である、「事業活動に関わるコンプライアンスの徹底」「職務の有効性と効率性」「財務報告の信頼性の確保」「資産の保全」の達成をめざして取り組んでいます。

7つの内部統制体制

- 1 コンプライアンス体制
- 2 情報管理体制
- 3 リスク管理体制
- 4 効率性確保体制
- 5 子会社などの管理体制
- 6 監事監査確保体制
- 7 監事への報告体制

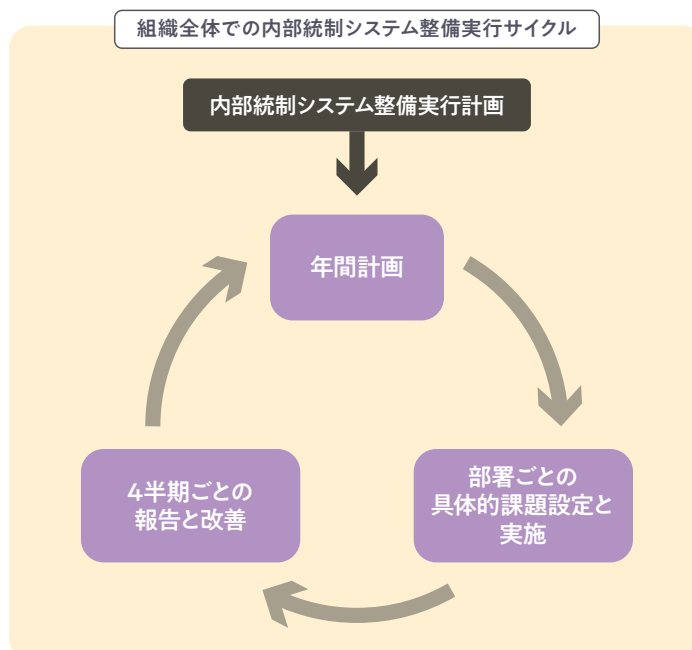
コンプライアンス…
生協の健全かつ適正な業務運営



日常的な実行計画

上記基本方針にもとづき、毎年「内部統制システム整備実行計画」を策定しています。年間の共通重点課題を設定するとともに、各部に内在するリスクを評価し、年間を通して継続してリスク管理に取り組んでおり、四半期に一度、課題の進捗状況を確認しています。

また日常的に各部でモニタリングを行い、リスク管理が適切に実行されているか検証するとともに、独立した立場から内部監査担当による内部監査を実施しています。



● みやぎ生協・コープふくしまの概況

(数字は2026年3月20日時点)

名 称 みやぎ生活協同組合 **設 立** 1982年3月21日

本部所在地 〒981-3194 宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2

メンバー(組合員)数 963,548人

店舗・宅配事業所数

	みやぎ	ふくしま
店舗	49	12
●うち直営SM型	47	12
●うちA&COOP (農協と共同運営)	2	0
コンビニ	2	0
宅配センター	11	6

職員数

(出向者等を含む)

レギュラー職員	1,258
エリア職員	269
嘱託職員	567
パートナー職員	4,134
アルバイト職員	2,037
計	8,265

経営概況

ホームページに
掲載しています。



子会社・関係団体一覧

法人名	主な事業内容
(株)宮城県学校用品協会	学校用品販売・アフタースクール事業・宅配水・コインランドリー
(株)コープエステート	不動産賃貸
(株)スクラムファイブ	ベーカリー
(株)コープストア	A & COOPの経営
(株)コープコンビニエンス	FamilyMart + COOPの経営
社会福祉法人 こーぷ福祉会	高齢者福祉・介護事業

みやぎ生協・コープふくしま

サステナビリティレポート 2026

発行日 2026年5月13日

発行 みやぎ生活協同組合 〒981-3194 宮城県仙台市泉区八乙女 4-2-2

お問合せ先

- 機関運営部 TEL.022-771-1590 FAX.022-773-1821
- 環境活動に関する詳細は環境・サステナビリティ推進部 TEL.022-771-2461

HPアドレス

みやぎ生活協同組合 <https://www.miyagi.coop/>
本報告書はホームページにて掲載、ダウンロードできます。



このパンフレットは水なし印刷で印刷し、カーボンオフセットしています。
CO₂排出量は、1部あたり542gでJWPAとCFCを通じてカーボンオフセットしました。

